特集

ひとつ先の伝統工芸品「アキタノヒカリ」プロジェクト
～伝統工芸品とLED照明を組み合わせたモダンデザインの提案～

はじめに　～秋田の美しい伝統工芸を後世に伝えたい～

自らの強み、地域資源を活かした商品開発で地域の活性化を図る取組が官民挙げて盛んです。秋田県のバックグラウンドには、農林水産物、鉱工業品、観光資源など数多くの地域資源がありますが、伝統工芸品もその一つです。

県内の伝統工芸品の産地では現在、新たな購買層の獲得、海外への販路開拓をめざした挑戦が始まっています。その中から今号で紹介するのは、“ひとつ先のものづくり”をテーマに平成21年7月に始動した「アキタノヒカリ」プロジェクトです。

このプロジェクトは、秋田の伝統工芸品とＬＥＤ照明を組み合わせ、素材本来の美しさや伝統的な加工技術を活かしながら、今までになかったデザイン商品を開発し、これまで伝統工芸品に縁の薄かった方々にも喜んでもらえるよう提案するものです。

出荷額の面では鉱工業製品や農林水産物ほどのインパクトはないかもしれませんが、私たちは、暮らしを彩る美しい秋田の手仕事、匠の技、豊かな文化を後世に引き継いで行かなければなりません。秋田の魅力発信に役立ち、地域活性化に重要な役割を果たすものと確信しています。

伝統工芸を取り巻く背景

大正・昭和期に日本各地を見て歩き、その土地の風土に根ざした生活用具として作られ、使われてきた物に“用の美”を発見した民藝運動の創始者・柳宗悦は著書『手仕事の日本』（昭和18年）で、樺細工（角館）、岩七厘（阿仁）、楢岡焼、川連漆器、アケビ籠（横手）、イタヤ箕（大平、角館）、曲げわっぱ（大館）など多数の秋田の手仕事を紹介し、その力強さ、美しさを賞賛しています。

このように、古くから秋田では多くの手仕事、伝統工芸品が育まれ、秋田を特徴づける文化として成熟し、県内外において認識されてきました。

ところで、伝統工芸品は、長年にわたり受け継がれてきた卓越した技術、自然の産物の特質や美しさを活かして作り上げられた芸術品などのプラスのイメージを持つ反面、用途やデザインが現代の生活様式に合わない、取り扱いが難しい、大量生産される工業製品に較べると価格が高いなどのマイナスのイメージがあることも否めません。

このため、本来の生活用具としての役割から遠ざかり、一部の愛好家や記念品贈答用などの限られた販路にとどまりがちで、また後継者不足という悩みも抱えています。

こんな素敵でユニークなライトができました！

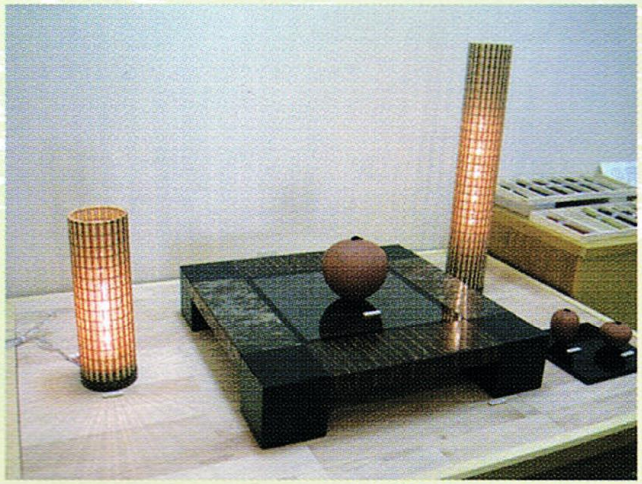
「アキタノヒカリ」プロジェクトは、秋田県の平成21年度ひとつ先の工芸品商品開発事業によるもの。プロジェクトのコーディネーターには、全国の伝統工芸の産地とのプロジェクトを多数手掛ける渡邊真典さんを迎え、デザイナーには、国内外のインテリアを手掛け、伝統工芸の職人とのコラボレーションを得意とする橋本夕紀夫さんを迎えました。今回プロジェクトに参加した製作者は、いずれも国が指定する伝統的工芸品の「大館曲げわっぱ」「秋田杉桶樽」「川連漆器」「樺細工」の7工房です。

写真：永易量行

【樺細工】

有限会社 冨岡商店　　冨岡 浩樹（とみおか こうき）氏

～他産地とのネットワークを活かした販売を展開～



クラフトを多様化するニーズの中で使ってもらうためには、垣根を越えた他産地と協力したものづくり、お互いの販売ルートでネットワーク作りが必要と常日頃から考えてきました。当社本店では「心の豊かさ」を提案するために、お客様の生活ステージを思い描くことを大事にしてディスプレイ、創作活動をしています。

今回のプロジェクトは「アキタノヒカリ」というブランドで、県内4産地、7人の「想い」がひとつとなっています。お互いの産地の今後の販路拡大につながることを期待しています。

営業本部・工場
秋田県大仙市上鴬野字熊野71-3
TEL 0187-56-3239　http://tomioka-shoten.co.jp/
本店　アート＆クラフト かづき
秋田県仙北市角館町東勝楽丁2-2
TEL 0187-54-1565　http://ac-kazuki.jp